令和３年度　もも病害虫防除暦

JA佐渡もも・ネクタリン倶楽部

【令和2年12月10日現在の登録内容】

回数	散布時期	実施日	主な対象病害虫	１０a散布量成木(SS)リットル	薬剤名	散布濃度	収穫前使用時期	使用回数	水100Lあたり薬量	使用上の注意
1	３月上中旬 発芽前		黒星病・灰星病 せん孔細菌病、縮葉病	300	チオノックフロアブル	500倍	7	5	200 ml	・チオノックフロアブルとハーベストオイルに替えて、石灰硫黄合剤７倍（発芽前）単用散布でも良い。 ・温暖無風の日にていねいに樹全体を洗い流す用に散布する ・いぼ皮病の発生が見られる時は、患部を削りトップジンMペーストを塗る
			カイガラムシ類		ハーベストオイル	50倍	発芽前	－	2,000 ml	
2	４月中旬 開花前 （１～２部咲）		せん孔細菌病、縮葉病	300	ICボルドー412	30倍	－	－	3,333 g	・展葉後の散布は薬害を生じるので、散布時期を厳守する ・**せん孔細菌病春型病斑**をみつけたら、切除し処分する
			ｼﾝｸｲﾑｼ類 ﾊﾏｷﾑｼ類 ｳﾒｼﾛｶｲｶﾞﾗﾑｼ類		ダーズバンＤＦ	3000倍	14	5	33 g	
3	４月下旬 落花直後		せん孔細菌病	300	アグリマイシン100	1500倍	60	2	66 g	・花腐れの発生が多い場合（黒星病対策）は、ﾄﾘﾌﾐﾝ水和剤1,000倍（前日/3回）を散布する
			ｶｲｶﾞﾗﾑｼ類、ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ、ｼﾝｸｲﾑｼ類		ｻｲｱﾉｯｸｽ水和剤	1000倍	21	3	100 g	
臨時	５月上旬		コスカシバ防除のフェロモン剤、スカシバコンＬを１０a当たり４０～１００本取り付ける。							
4	５月上旬 落花10日後		黒星病・灰星病 せん孔細菌病、縮葉病	350	チオノックフロアブル	500倍	7	5	200 ml	
			ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ、ｼﾝｸｲﾑｼ類、ｶﾒﾑｼ類		ｽﾀｰｸﾙ顆粒水溶剤	2000倍	前日	3	50 g	
5	５月中旬 （落花２０日後）		せん孔細菌病	400	マイコシールド	1500倍	21	5	66 g	・カメムシ多発園ではｱｰﾃﾞﾝﾄ水和剤1,000倍（前日/3回）を散布する
			シンクイムシ類 ハマキムシ類 モモハモグリガ		ｻﾑｺﾙﾌﾛｱﾌﾞﾙ10	5000倍	前日	2	20 ml	
臨時	５月下旬		ﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ、ﾊﾏｷﾑｼ防除に交尾阻害フェロモン剤として、コンフューザーMMを100本/10aを取り付ける							
6	5月下旬		黒星病・灰星病 せん孔細菌病、縮葉病	400	チオノックフロアブル	500倍	7	5	200 ml	
			ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ、ｼﾝｸｲﾑｼ類、ｶﾒﾑｼ類、ｱｻﾞﾐｳﾏ類		ﾓｽﾋﾟﾗﾝ顆粒水溶剤	4000倍	前日	3	25 g	
7	６月上旬		せん孔細菌病	500	マイコシールド	1500倍	21	5	66 g	・散布後できるだけ早めに袋をかけるようにしましょう！
			ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ、ｼﾝｸｲﾑｼ類 ｶﾒﾑｼ類		アーデント水和剤	1000倍	前日	3	100 g	
8	6月中旬		黒星病、せん孔細菌病、ﾎﾓﾌﾟｼｽ腐敗病	500	デランフロアブル	600倍	7	4	166 ml	・デランフロアブルに替えて、チオノックフロアブル　500倍（7日/5回）を使用しても良い。
			ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ、ｼﾝｸｲﾑｼ類		ｽﾀｰｸﾙ顆粒水溶剤	2000倍	前日	3	50 g	
9	6月下旬		せん孔細菌病	500	スターナ水和剤	1000倍	7	3	100 g	・いぼ皮病の発生樹にはﾍﾞﾝﾚｰﾄ水和剤2,000倍(前日/3回)を樹幹散布する ・早生種の灰星病対策は収穫20日前より実施する。（収穫時期からさかのぼり散布日・薬剤を決定する）。 ・デランフロアブルに替えて、チオノックフロアブル500倍（7日/5回）を使用しても良い。
			ハダニ類 モモサビダニ		コロマイト乳剤	1000倍	7	1	100 ml	
10	７月上旬		黒星病、せん孔細菌病、ﾎﾓﾌﾟｼｽ腐敗病	500	デランフロアブル	600倍	7	4	166 ml	
			ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ、ｼﾝｸｲﾑｼ類、ｶﾒﾑｼ類、ｱｻﾞﾐｳﾏ類		ﾓｽﾋﾟﾗﾝ顆粒水溶剤	4000倍	前日	3	25 g	
11	7月中旬		ホモプシス腐敗病、灰星病	500	ナリアWDG	2000倍	前日	2	50 g	・ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ多発園ではテルスターフロアブル3,000倍（前日/２回）を加用散布する。
			ハダニ類		ﾀﾞﾆｻﾗﾊﾞﾌﾛｱﾌﾞﾙ	2000倍	前日	2	50 ml	
12	7月下旬		灰星病、黒星病 ﾎﾓﾌﾟｼｽ腐敗病、	500	ｵｰｼｬｲﾝ水和剤	2000倍	前日	3	50 g	・除袋後、降雨後の散布を必ず行う。また、灰星病の罹病果実は埋めるもしくは園外に持ち出し処分する。 ・前日使用の薬剤であるが同じ剤の連用は避け、ローテーションを組んで実施する。
臨時	８月上旬		灰星病、黒星病	500	フルーツセイバー	1500倍	前日	3	66 ml	
13	収穫後防除		せん孔細菌病、縮葉病	500	ICﾎﾞﾙﾄﾞｰ412	30倍	―	－	3,333 g	・ﾊﾏｷﾑｼ類が多発した場合はﾀﾞｰｽﾞﾊﾞﾝDF 3,000倍(14日前/5回)を加用する。 ・この時期のボルドー散布は必ず行う。
14	９月中旬		せん孔細菌病、縮葉病	500	ICﾎﾞﾙﾄﾞｰ412	30倍	―	－	3,333 g	・この時期のボルドー散布は必ず行う。
臨時	収穫後～発芽前		コスカシバ	200	トラサイドＡ乳剤	300倍	発芽前	1	333 ml	・発芽後散布は薬害の恐れがあるので、発芽前使用を遵守する。なお、コスカシバ被害箇所を削り取ってからの散布が効果的である。 ・トラサイドＡ乳剤に替えて、ガットキラー乳剤100倍（休眠期/１回）でも良い。

アグリマイシン（ｵｷｼﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ、ｽﾄﾚﾌﾟﾄﾏｲｼﾝ）とマイコシールドの使用回数限度に注意し、上記以上の散布をする場合はＪＡに相談下さい。

【薬剤散布における注意事項】（必ず守ってください）

（注1）
農薬の登録外使用は法律で禁止されています。上記以外の農薬使用についてはJAまたは関係機関にご相談してください。
周囲作物への農薬飛散防止に努めましょう。（他の農産物に農薬がかからないよう注意しましょう。）
農薬使用については、容器等にあるラベルの内容を確認・遵守しましょう！
散布作業はマスク、手袋等安全防除衣を着用するとともに、無風の涼しい日に実施しましょう。
防除は生育や病害虫の発生予察に注意して適期に実施しましょう。
園地環境（防風樹の整備・草刈りの徹底）をよくしましょう。

（注2）
薬剤混用の順序（水和剤混用の場合）　水　→　展着剤　→　殺菌剤　→　殺虫剤
薬剤混用の順序（乳剤混用の場合）　水　→　乳剤
薬剤混用の順序（フロアブル剤、水和剤混用の場合）水　→　フロアブル剤　→　水和剤
※ボルドー液の場合はボルドー液調整後に展着剤→殺虫剤の順に混用しましょう。

【展着剤】（せん孔細菌病対策としての薬剤効果向上のための展着剤）

展着剤名	有効成分と特性	散布倍率	水100Lあたり薬量	注意事項
ﾈｵｴｽﾃﾘﾝ	ﾎﾟﾘｵｷｼｴﾁﾚﾝｱﾙｷﾙﾌｪﾆﾙｴｰﾃﾙ系（界面活性剤）	5000～20000倍	20～5ml	本剤を先に溶かしてから薬剤を希釈する（最初に入れる）
◎アビオンＥ	パラフィン展着剤（乳化性と表皮保護にすぐれる）	1000倍	100ml	本剤を先に溶かしてから薬剤を希釈する（最初に入れる）
ハイテンパワー（クイックタッチ）	ﾎﾟﾘｵｷｼｱﾙｷﾚﾝ脂肪酸ｴｽﾃﾙ30%（乳化にすぐれ泡立ちが少ないが、耐雨性に劣る）	5000～10000倍	20～10ml	本剤を先に溶かしてから薬剤を希釈する（最初に入れる）
ブレイクスルー	シリコーン系：ﾎﾟﾘｵｷｼｱﾙｷﾚﾝｵｷｼﾌﾟﾛﾋﾟﾙﾍﾌﾟﾀﾒﾁﾙﾄﾘｼﾛｷｻﾝ80%（拡展性と速乾性が高く汚れが少ない）	5000～10000倍	20～10ml	薬剤調整後に本剤を加え攪拌する（最後に入れる）

【葉面散布剤肥料】（せん孔細菌病対策としての植物体内の強化のための資材）

展着剤名	保証成分	散布倍率	水100Lあたり薬量	特徴と注意事項
トップハーベスト 富士見物産（埼玉農耕株）	乳酸菌・酵母菌・納豆菌・ミネラル・水	500～1000培	200～100ml	菌体外酵素やアミノ酸、ビタミン、ホルモン、核酸等を豊富に含有し、食味向上等、食物生育環境の改善効果あり。5月～収穫前までの薬剤散布に合わせたタイミングでの使用を薦めます。※ｱﾙｶﾘ性農薬とは混用できません。
ケイ太君 富士見物産（埼玉農耕株）	ケイ酸94.6%、ｱﾙﾐﾆｳﾑ3.38%、ﾁﾀﾝ、鉄等	3000～5000倍	33～20g	ケイ酸を主成分とした植物ﾐﾈﾗﾙ（海草ｹﾙﾌﾟ）病害虫への抵抗性発現、光合成活性に効果あり。トップハーベストと合わせて5月～収穫前までの薬剤散布に合わせたタイミングでの使用を薦めます。